

精索静脈瘤自己検診票

精索静脈瘤とは

- 精巣周辺の陰嚢部（俗にいう玉袋）に発達した静脈瘤（静脈のコブ）のことです。
- 一般男性の15%、男性不妊患者の40%に認められます。
- 精巣温度の上昇、精巣周辺の血行障害などにより、精子の状態に悪影響を与えます。

自己検診（当てはまる項目にチェック☑を入れてください）

- 精巣（睾丸）の大きさが左右で異なる（たとえば、左の精巣が小さい）
* 左右差があり、左が小さい場合は左精索静脈瘤が疑われます。
- 陰嚢の大きさが左右で異なる（たとえば、左陰嚢がふくらんでいる）
* 陰嚢のサイズに左右差がある場合、大きい陰嚢側に精索静脈瘤があることがあります。
- 陰嚢が常に垂れ下がっている（たとえば、左陰嚢が垂れさがっている）
* 陰嚢は寒い時には縮み、暖かい時には伸びることで温度調節をしています。陰嚢が常に伸びて垂れ下がっている場合は、陰嚢が常に温められている可能性があり、精索静脈瘤が疑われます。
- 陰嚢の表面がデコボコしている
* 陰嚢の表面の皮膚がデコボコしている、ミミズ腫れのように見える、中にうどんが入っているように見える、このような場合には精索静脈瘤が疑われます。
- 二人目不妊で悩んでいる
* 一人お子さんができてからの続発性不妊（いわゆる二人目不妊）の78%は、精索静脈瘤が原因です。

●当クリニックでの対応●

漢方薬の処方のほか、男性不妊に対応している泌尿器科の専門医をご紹介します。

美馬レディースクリニック